



祭典合唱団ニュース

ひろしま

NO. 12
2021年11月7日
発責：実行委員会

合唱団員 紹介コーナー

私も歌ってます
よろしくおしま〜す!

山根良則

(T)

もっとレベルアップ
したい!



ハミングバードの山根といます。少ない男性4人の中の一人です。数年前から歌っています。小学校の教員として44年になります。今も一日働いて

います。今は教室に入れないなど困っている子たちに寄り添いながら支援の活動をしています。

毎日の筋トレとジョギングのおかげで体力には少し自信があります。表情筋のトレーニングも毎朝やっていますが練習で生かされているかどうかはわかりません。

日うた祭典の練習にはほとんど毎回参加しています。多彩な指導者からレッスンを受けることで合唱の基本を学び、自分の合唱力をレベルアップしたいと思っています。三上先生には腹の使い方や呼吸の仕方などを質問し、今までの疑問が少し解決しました。いつも優しく丁寧に教えて下さるので尊敬しています。

「生命の詩」の練習では指揮者の小川先生の鋭い指摘に背すじが伸び、となりで歌っていた今福さんと張り合って大声で歌っていたら最後に声が出なくなりました。

(笑) まだ未熟ですね。まだまだ自分の課題はいっぱいありますが、練習会に参加して貪欲に学び、祭典が終わったあともハミングバードの合唱の力になれるようにがんばるつもりです。



高田龍治先生

coda2の「魂を振り
絞れ」の繰り返しパート
にロックのリズムでピアノ
が盛り上げるところではア
レンジの意図を汲んでしっ
かりロックで歌いあげて欲
しいとの要求がありました。



小川秀樹先生

「生命の詩」

小川秀樹先生

日本のうたごえ祭典まで
ほほひと月前となり、10月
31日(日)の午前中は「生
命の詩」の本番指揮者・小
川秀樹先生の指導がありま
した。太鼓奏者の今福優さ
んも歌い手として参加して
のレッスンでした。小川先
生はこの日、他に本番の演
奏指揮があるというお忙し
いスケジュールであったた
め、わずか30分間のレッス
ンでしたが、「練習は本番
のつもりで、本番は練習の
ように」「アステールのス
テージをイメージして」「
身体全体を共鳴させて」「
素晴らしい歌詞をキチン
と伝えて」など合唱団員に
数々の言葉を伝えられ、本
番が楽しみになる凝縮され
たレッスンでした。



今福 優さん

その後、大鼓センターの
大野正信さんから「生命の
詩」の演奏のステージのイ
メージが話されました。
「コンサートヒロシマ・エー」
の開幕を飾るにふさわしく
合唱、金管五重奏、50台
の和太鼓が壮大なスケール
で「生命の詩」を演奏する
ことになりました。

「生存の叫び」

高田龍治先生

太鼓の中心を担う今福優
さんは、日本のうたごえ祭
典には16年振りの出演にな
ることなども披露されまし
た。

その後は高田龍治先生の
作曲された「生存の叫び」
のレッスンが行われました。

特にこの曲は、昨年亡く
なられた小林康浩さんと高
田龍治さんとの多くの仕事
の最後となるもので、特に
ピアノのアレンジに注目し
てほしいと言われました。

祭典本番まで一か月 本番をイメージしたレッスンが続く

内田先生 「広島 愛の川」初レッスン



内田陽一郎先生

午後のレッスンは、「広島 愛の川」のレッスンは、初めて本番指揮者の内田陽一郎先生の指揮、迫千月先生のピアノ伴奏で行われました。この合唱団でも初めに声を温め、舌を自由にするためにこんな練習をしています…と、「アエイ オオウオイエア」をピアノで音階を変えながら発声練習をしました。

また、「本番までに毎日腹筋を鍛えて下さい」と突然、床にうつ伏せになって腕で体を持ち上げて60秒保つ見本を示されたので、会場は驚きに包まれました。

「アメイジング・グレイス」 ソロ豊田日乃さん



豊田日乃さん

この日のレッスンには特別なサプライズがあり、「アメイジング・グレイス」で一番のソロを歌う豊田日乃さん（内田陽一郎先生のお孫さん）が参加して

レッスンをしました。

豊田さんは、エリザベト音楽大学の2年生。先月行われた第22回大阪国際音楽コンクールの声楽部門オペラコース、大学・大学院の部で第1位に輝いた新進気鋭のソプラノ歌手です。勢いのある清らかなで美しいソプラノの歌声に、コンサートの楽しみがまた一つ増えました。

曲の全体を知るためにと全パートで「広島 愛の川」の主旋律を歌いました。その後楽譜を追いながら、まず第一テーマAがあり、次に第二テーマBが現れ、ここで二長調からイ長調に転調しますと分析的に教えて下さいました。

歌詞は中沢啓二さんの「はだしのゲン」のモチーフと同じです。広島を「語ろうよ・伝えよう・誓おうよ」これを「怒り・悲しみ・優しさを」と受けて「世界の海へ」「流れ行く、流れ着く、巡り行く」大事なポイントです。先日おしくなりになった坪井直さんも同じ、初めは怒り。それが包み込む優しさになっていく。祈りに昇華していった同じ精神です。

私たち祭典合唱団員はいつの間にか大学の内田ゼミの学生になったよう

賛同募金 ガンバリました。



森岡 徹之

私は庄原から参加していますが、チケットを売ることはコロナ禍では難しく、賛同募金で頑張ろうと考えて昨年から声をかけ続けて来ました。

少しでも可能性のある方へお願いして見ると、思いがけず募金をいただくことが出来ました。金額の多い少ないは関係ありませんが、今月に入って一万円募金していただいた方が二人おられました。お二人とも僧侶です。

その内のお一人は、中国新聞（広場）や朝日新聞（声）へ投稿されている中山道（おさむ）さん九一歳です。私の高校時代の国語の先生でした。皆さんも紙上で目にされたお名前だとも思いますが、私は、先生の投稿を読む度に勇気をいただてきました。

今回の募金は西城の地からしっかり応援しているという気持ちです！とおっしゃっていました。付け加えての紹介ですが、9月20日付の「中国新聞」の「洗心」で大きく特集されておられます。

一雨ずつ寒くなっていますが、核兵器禁止条約への参加を求める署名活動も声かけを続けています。もう少し両方の声かけをやって見ようと思いますが、特に募金は「ワンコインでもいいですよ」と！

レッスン予定です

11月14日

場所 中央公民館

10:30~11:20
HEIWAの鐘
(指揮 山本高栄氏)

11:30~12:30
広島へ
(指揮 山本高栄氏)

13:30~14:30
広島 愛の川
(指揮 内田陽一郎氏)

14:40~15:40
フィンランディア
(指揮 齊城英樹氏)

16:00~16:30
青い空は
(指揮 高田龍治氏)

な感じで先生の指導を受けて「広島 愛の川」に
対面していました。

うたごえ新聞の9月20日号には内田陽一郎先生のインタビューがあります。

是非何度も読んで下さい。是非何度も読んで下さい。是非何度も読んで下さい。